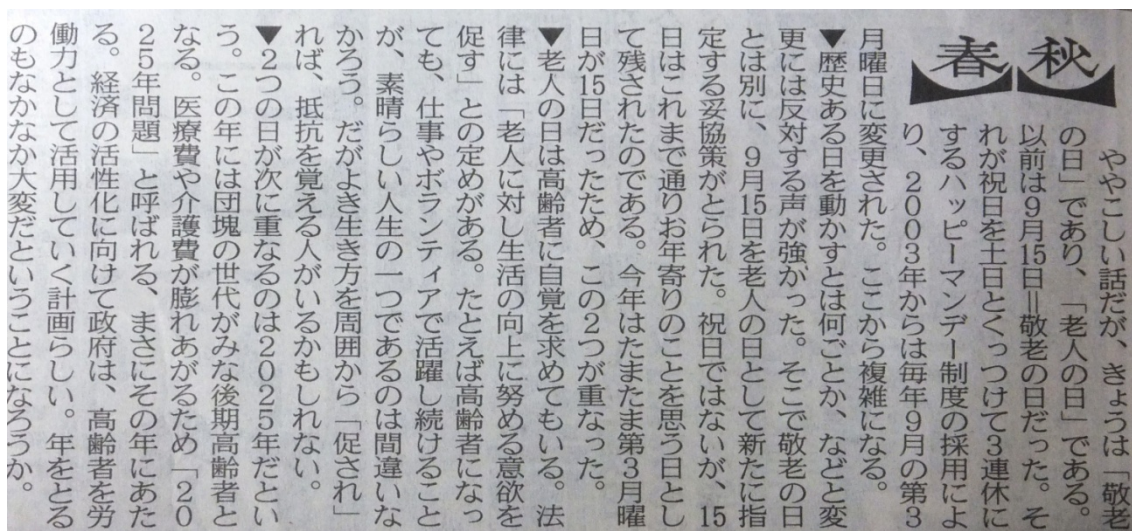


「敬老の日」と「老人の日」

今日 9 月 15 日は「敬老の日」でお休みだ。退職してから、どうも曜日や休日の感覚が薄れてしまった。別に気に留めずに、図書館に行って本をじっくり読んだ。帰宅して今朝の日経新聞「春秋」を読むと、今日という日の「ややこしい話」が書かれていた。ややこしいので、説明するより記事全文を掲載しておこう。



この記事のように、今日はたまたま「敬老の日」であり、「老人の日」であるようだ。2003年から制度変更されたようで、10年ほど経つが知らなかった。この制度変更はどれだけ周知されているのだろうか。とにかく休日、連休が増えれば関係ないということだろうか。

私にとって、「老人の日」というのはピンとこないが、「敬老の日」には親しみを覚える。それというのも4月から「敬老パス」を使用しており、毎日のように「敬老」という言葉を身近に感じているからだ。「敬老パス」には本当に感謝している。これがあると行動範囲が広がる。毎日が「敬老の日」というつもりで、これからも「敬老パス」を活用してもらい、「元気な老人」として行動していきたい。

総務省の人口推計によると、65歳以上の高齢者人口が3296万人、総人口の25.9%、75歳以上が1590万人、同12.5%となり、いずれも過去最高を記録した（朝日新聞9月15日）。「団塊の世代」の1949年生まれが65歳になったのが一因で、4人に1人が高齢者、8人に1人が75歳以上となる。昨年の平均寿命は、男性が初めて80歳を超えた。戦争直後頃には50歳であったので、戦後70年近くで30歳も伸びたことになる。「人生80年」時代が本格化してきた。これからの長い人生をどう生きていくか、これまでの「ストック」を有効活用するなど、前向きに考えていきたい。

(2014年9月15日)